

## 令和 2 年度 学校評価報告書

| 領域   | 重点目標   | 具体的方策<br>(具体的な取組, 手立て)   | 評価項目・指標<br>(評価方法・評価基準)   | 自己評価の結果<br>(達成状況, 結果の分析)   | 改善方策<br>(自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)   |
|------|--|--|--|--|--|
| 学校経営 | 開かれた学校づくりの積極的推進と風通しの良い職場づくり<br>1 学校情報の積極的発信の推進<br>2 働き方改革推進に向けた取組                                      | ①ホームページ等を通じた一層の情報発信。<br>②職員の勤務状況の把握とノー残業デーの取組の推進。  | ①ホームページの更新状況の確認(ホームページ更新数 100 回/年以上)と更新した教員の数(15人以上)<br>②タイムカードによる在校時間の把握と職員各自によるノー残業デーの設定   | ①今年度はコロナ渦にもかかわらず、学校 WEB ページの運用により情報発信が適宜行うことができた。特に学校から学校再開や登校時間等の情報発信において重要なツールとして効果を発揮した。コロナ渦でも、授業等の教育活動を可能な限り保護者や地域に発信することができた。<br>②今年度はタイムカードの導入により、時間という客観的なデータにより職員の勤務状況を把握している。月ごとにタイムカード打刻時間を訂正して勤務時間に対する意識付けとしている。月 80 時間以上の超過勤務者には校長面接を行うとともに、これまで 2 名の職員について健康管理医(産業医)の面接も実施した。   | ①これから想定される with コロナの中での様な情報発信が必要で、期待される情報を探っていききたい。そして一層の情報発信に向けて、全職員による積極的な更新作業が進められるよう引き続き働きかける。<br>②タイムカードによる出退勤時刻を客観的に把握して勤務状況の把握を継続する。今後も引き続き職員の意識改革を進める。また、会議や行事の見直しなど業務改善に努める。  |
| 学習指導 | 人生を拓く「確かな学力」の育成<br>1 学習習慣の確立と基礎・基本の定着<br>2 読書習慣の確立<br>3 各種検定試験の積極的活用<br>4 生徒の学力把握・学力向上及び職員の指導力改善の取組    | ①授業を大切にする態度の育成(授業規律、予習・復習など)。<br>②「朝読書」の全校実施と取組の充実。<br>③各種検定受検者の増加(英検・漢検・数検等)。<br>④生徒による授業評価アンケートの実施。<br>⑤実力テスト、模試等の実施と活用。<br>⑥授業研究週間(年 2 回)を軸とした相互授業参観と研究協議による指導力改善のための校内研修。    | ①アンケートを活用した家庭学習時間等の把握<br>②学校生活アンケート結果(読書量 0 冊/月の生徒の割合 45%以下)<br>③各種検定の受験者数の把握<br>④生徒による授業評価アンケート結果(授業満足度 65%以上)<br>⑤模試等の結果による学力把握と学力向上の確認。<br>⑥校内研修及び授業公開の実施回数と生徒及び保護者による学校評価アンケート結果(生徒:授業理解度 65%以上, 保護者:授業研究週間等取組満足度 85%以上) | ①家庭学習時間 0 分/日の生徒の割合は 39.7% (昨年度 42.2%) と減少しているが、生徒の学習習慣の確立は依然として大きな課題である。<br>②学年の取組で進めてきた「朝読書」は、今年度は時間割に組み込んで全学年で実施することができた。その成果として読書量 0 冊/月の生徒の割合は 33.6% (昨年度 42.2%) と減少している。<br>③生徒アンケートにおける授業満足度「本校ではわかりやすい授業が展開されている」に対する肯定的な評価の割合は 57.4% (昨年度 64.3%) と減少した。<br>④年度当初は年 2 回の授業研究週間を設定していたが、今年度はコロナ渦の影響があり 1 回の実施となった。授業研究週間を通して、教員相互の授業参観を推進すると共に、終了後教科の枠を超えた班を構成して、班ごとに研究協議を実施し、授業力向上に取り組んだ。生徒アンケートにおける授業理解度「私は授業内容が理解できている」に対する肯定的な回答の割合は 57.5% (昨年度 65.5%) と減少しているが、保護者アンケートにおける「教員の研究授業や授業研究週間の取組を評価する」に対する肯定的な評価の割合は 85.8% (昨年度 79.6%) と上昇している。 | ①今年度はクラッシーを活用することにより家庭学習習慣の確立と、授業を大切にする態度の育成を図った。次年度からは Office365 の活用により、より一層の家庭学習の定着を図る。<br>②朝読書の取組を、学校全体で組織的な取組へと変更していく。<br>③コロナ渦の影響で生徒の授業満足度について、肯定の割合が減少してしまった。次年度以降に向けて、今年度の授業の取組を検証し、引き続き継続する指導と、改善点を検証し、職員で共通認識を持ち、授業改善により一層努める。<br>④クラッシー等の導入は、学力向上に一定の成果を上げているが、今後の利用については再考の地がある。次年度に向けて Office365 の活用方法について検証して改善を進めていく。校外での研修の機会等も含め、引き続き職員研修等を通して授業力の向上に取り組み、生徒の授業理解度の向上を図る。また、保護者等への授業公開を進め、本校の授業力向上に対する取り組みを積極的に情報発信する。 |
| 生徒指導 | 基本的生活習慣の確立とマナー・モラルの向上<br>1 登校指導・マナーアップ運動等による通学マナーの向上<br>2 学校いじめ対策組織の取組の充実<br>3 生徒情報の共有と教育相談や面談等個別指導の充実 | ①登校・通学路指導を通して、挨拶の励行、自転車乗車マナー指導を行う。<br>②生徒と警察が協力して交通安全を呼びかけるマナーアップ隊の活動を推進する。<br>③生徒理解のためアンケート(いじめ実態調査を含む)や個別面談等を計画的に実施し、いじめの早期発見に努める。<br>④担任、教育相談係、養護教諭が連携協力し、生徒が相談しやすい教育相談体制の整備。 | ①登校指導の実施状況の把握と生徒及び保護者による学校評価アンケート結果(交通ルール・マナー守っている 85%以上)<br>②マナーアップ隊の実施状況の把握<br>③学校生活アンケートの実施回数と結果の活用状況(いじめ実態調査の活用状況を含む)<br>④生徒による学校評価アンケート結果(悩み相談満足度 70%以上)  | ①通学路の交通危険箇所、教員が立ち番指導に当たった。生徒アンケートにおける「私は登下校時の交通ルール・マナーを守っている」に対する肯定的な回答の割合は 90.2% (昨年度 87.6%) と、9 割を超える回答がありその成果が数値にあらわれている。<br>②生徒会本部役員と風紀委員が、警察と協力して、登校時に通学マナーアップ運動を実施した。<br>③いじめを含めた生徒の生活実態調査を実施し集計結果について割合の変化や個々の記載案件について、いじめ対策委員会及び全職員で共有した。<br>④生徒アンケートにおける「本校の職員は悩みや相談事を聞いてくれる」に対する肯定的な評価の割合は 72.3% (昨年度 73.8%) とほぼ横ばいになっている。   | ①登下校時の交通ルール・マナーに対する生徒の意識は高い数値で維持されている。依然として近隣の住民や自動車運転者から苦情が入ることがあり、なお一層の注意喚起と、生徒自らに交通安全に対する内発的行動ができるよう継続した指導が必要である。<br>②生徒を中心として組織的に行っている年間を通したマナーアップ運動の取組については、今後も継続して実施していく。<br>③生活実態調査からは、本校生徒の様々な課題を見出すことができる。課題を全職員で受け止め解決に向けて組織的に対応する体制で今後も継続的な取組を行う。<br>④今年度は教育相談の役割を担うスクールカウンセラーが配置された。しかし月 1 回の配置では多くの生徒からの多くの要望に対してこたえることができない。職員が連携・協力して生徒が相談しやすい教育相談体制を整備する。  |

| 領域     | 重点目標   | 具体的方策<br>(具体的な取組, 手立て)   | 評価項目・指標<br>(評価方法・評価基準)   | 自己評価の結果<br>(達成状況, 結果の分析)  | 改善方策<br>(自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)   |
|--------|--|--|--|---|--|
| キャリア教育 | <p>多様な進路に対応した「キャリア教育」の推進</p> <p>1 ガイダンスや上級学校訪問等による「キャリア」意識の醸成</p> <p>2 生徒の学校外活動の奨励</p> | <p>①上級学校見学, 分野別・職業別進路ガイダンス等を計画的に行う。</p> <p>②進学希望者対象の補習を充実させる。</p> <p>③教員の進路指導力の向上を目指した校内研修を実施する。</p> <p>④インターンシップ・ボランティア・体験活動等を実施する。</p> | <p>①各種ガイダンスの実施回数と生徒及び保護者による学校評価アンケート結果(進路指導満足度 80%以上)</p> <p>②補習の実施状況と保護者による学校評価アンケート結果(進学補習満足度 85%以上)</p> <p>③校内研修実施状況の把握</p> <p>④インターンシップ・ボランティア・体験活動等の実施状況の把握</p> | <p>①生徒の多様な進路希望に対応するため、総合的な探究の時間やLHRを活用し、分野別進路説明会等のガイダンスを実施した。コロナ渦でもガイダンスを実施したことにより、生徒アンケートにおける「本校では進路指導が適切になされている」に対する肯定的な評価の割合は 82.6% (昨年度 76.3%) と上昇している。</p> <p>②放課後や長期休業中に、進学希望者を対象として補習を実施した。保護者アンケートにおける「全学年進学補習等の取組を評価する」に対する肯定的な評価の割合は 85.4% (昨年度 80.4%) と上昇した。</p> <p>③今年度は近隣の保育園(柏さかさい保育園)で保育のインターンシップ、近隣町会の夏まつり(逆井・藤心夏まつり)でボランティアを実施することができなかった。体験活動では一日看護体験を、希望生徒に対してWeb上で実施した。</p> | <p>①総合的な探究の時間を中心に、発達段階に応じた進路ガイダンスを計画的に展開していく。多様な進路志向に対応するため、次年度以降の社会情勢を考慮した上で上級学校見学を含めガイダンス機能の充実に努める。</p> <p>②進学補習について、生徒・保護者に補習の実施内容等について周知されていない、部活動加入者が参加しにくいなどの意見があった。より一層の広報に努め奨励する。補習に対する個別の生徒の要望等についてもできるだけ柔軟に対応する。</p> <p>③特に若手教員に対して、進路指導の指導力向上のための職員研修を充実させる。次年度以降の社会情勢を考慮した上で生徒の職業観の醸成や進路意識の向上のため、インターンシップ・ボランティア・体験活動等の実施について一層の充実を図る。</p> |
| 特別活動等  | <p>学校行事・生徒会活動・部活動等の生徒の主体的活動の充実</p> <p>1 生徒会活動の充実と学校行事の活性化</p> <p>2 部活動の振興</p>          | <p>①生徒会役員や各委員会の活動を活性化させ、生徒主体の行事運営を目指す。</p> <p>②各種公募作品展・コンクールに積極的に参加させ、その成果を認める。</p> <p>③部活動加入率を高める。</p>                                  | <p>①生徒・保護者・教員による学校評価アンケート結果(学校行事満足度: 生徒 90%以上, 保護者 90%以上, 教員 90%以上)</p> <p>②各種公募作品展・コンクールへの参加状況の把握</p> <p>③部活動加入率 60%以上</p>  | <p>①今年度はコロナの影響により文化祭と体育祭を実施することができなかった。よって生徒アンケートにおける「本校は文化祭や体育祭などの学校行事が盛んである」の項目は削除して調査していない。しかし前年度は肯定的な評価の割合は 84.1% 高い数値が出ていた。</p> <p>②11月の生活実態調査の結果では、部活動加入率は 55.1% (昨年度 51.2%) で前年度までの減少傾向から上昇に転じている。</p>   | <p>①これまでの調査結果では文化祭や体育祭で充実感や達成感を味わっている生徒は多い。with コロナの中でこの満足度を維持すると共に、より生徒主体の運営を進める。</p> <p>②部活動に加入している生徒は、基本的な生活習慣が身につけている者が多い。また成績上位者にも部活動加入者が多く含まれており、進路決定でも部活動加入者は強みを発揮している。このような状況を新入生や保護者に説明し、今後より一層部活動への加入を勧める。</p>   |
| 地域交流等  | <p>地域に開かれた魅力ある学校づくりの積極的推進</p> <p>1 生徒の学びや体験を支援する場としての地域・関係機関との連携の推進</p>                | <p>①近隣町会・小中学校等との連携の拡大と充実(防災体制、地域行事・ボランティアへの生徒の参加)。</p> <p>②県・柏市等関連機関との連携と生徒の参加の奨励。</p>   | <p>①近隣町会・小中学校との交流の実施回数と生徒の参加状況の把握</p> <p>②県・柏市との交流の実施回数と生徒の参加状況の把握</p>   | <p>①近隣の土南部小学校とは、陸上部生徒による小学生との交流や、吹奏楽部の演奏会の実施など小学生との交流を実施した。</p> <p>②今年度は柏市夏休み子ども教室など、本校の茶道部・ダンス部・書道部・美術部の生徒が活躍していた小学生に教える交流を実施することができなかった。</p>  | <p>①次年度以降の社会情勢を鑑み、近隣町会や小中学校など、地域との交流をさらに積極的に進める。</p> <p>②千葉県や柏市など関係機関との連携・交流もさらに奨励し、開かれた学校づくりを推進する。</p>  |